

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 17 日現在

機関番号：32631
 研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2008～2012
 課題番号：20402005
 研究課題名(和文) ネットワーキングに基づくネパール型循環型発展社会システムの構築に関する研究
 研究課題名(英文) Research into the construction of a sustainable community model in Nepal, based on a system of community networking
 研究代表者
 Brenda Bushell
 聖心女子大学・文学部・准教授
 研究者番号：90245671

研究分野：フィールドリサーチ, 環境教育

科研費の分科・細目：社会科学B・地域研究

キーワード：ネパール, Sustainable Community Indicators, Community Networking, NGO, 経済発展, 環境教育, 循環型発展社会, 環境問題

1. 研究計画の概要

本研究では、ネパールを対象とし、発展途上国における循環型発展社会を構築するためベストプラクティスを体系化し、ネットワークに基づく循環型システムの構築モデルを提案することを目的としている。ネットワークとは、ネパールの地方自治体、民間の教育研究機関、地域コミュニティ、NGOと日本の教育機関、NGOなどを含め、各組織を有機的に結び付けることを意味し、ネパールの事情を加味した形で真に有効となる施策の提案を行う。具体的には、

- (1) ネパールにおける持続可能なコミュニティモデルのデザイン
- (2) コミュニティ調査による重要なステークホルダーの同定、コミュニティ内のステークホルダー間の協力モデルのデザインといった取り組みを通じ、ネパール型の発展社会モデルについて検討を行う。

2. 研究の進捗状況

本研究では、聖心女子大学、東京都市大、ナショナルカレッジ(カトマンズ)、プラバット中学校(ラリトプール)間の協力により、ネパールにおける現地調査とデータ収集を継続的に行い、下記のような研究活動を実施している。

- (1) ネパールの地域を対象とした持続可能なコミュニティ指標の開発を行った。ネパールの地域住民やNGOなどの様々な立場からの意見も収集し、99の持続可能なコミュニティ指標のリストを作成した。
- (2) ネパールのチタワン地区にある2つのコミュニティを対象とし、2年間に渡り現地調査を行った。地域に適した指標を明らか

にすること、持続可能なコミュニティに関する意識を向上させることを本調査の目的としており、その結果を統計的に分析し、重要指標を明らかにした。

- (3) チトワン地区を対象とし、住民、NGO、公立小学校などの重要なステークホルダーを同定した。さらに、WWF、コミュニティフォレスト、バイオガス会社、女性団体を含む調査グループとグループ討議を実施し、ネットワークに基づく循環型システムの構築について検討した。
- (4) 調査対象コミュニティ内にある小学生に対し、環境問題と生活習慣に焦点を当てた試行的環境教育プログラムを2年間に渡り実施した。生活習慣と身近な環境問題の因果関係に関する理解を深めること、学校とコミュニティの繋がりを発展させることを目的としたプログラムを開発・実施し、評価を行った。
- (5) 持続可能な生活様式を多面的に捉えるため、持続可能な生活における女性のリーダーシップに関する調査、伝統的な家屋内の快適感温度調査、カトマンズ都市部の河川における水質調査と河川に対する意識調査、ゴミ問題の啓発を促すスポーツごみ拾い活動の企画と実施、といった新規のフィールド調査を実施した。

以上の研究活動を通じて得られた成果やデータの分析結果については、すでにいくつかの論文、国際会議等にて発表済みである。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

本研究が当初掲げたネットワークに基

づく循環型システムの構築モデルを提案するという点については、毎年のネパール現地における調査や研究活動を通じ、順調に調査が進行している。これまでに、ネパールの地域コミュニティにおける重要なステークホルダーを明らかにし、それらの個別目的や意義を調査したうえで、相互の関係構築を行った。また、99の持続可能なコミュニティ指標のインデックスを提示し、ネパール現地における重要度をフィールド調査により分析している。さらには、女性のリーダーシップに関する現地調査やカトマンズ市の河川水質調査を実施するなど、少なくとも現時点までは当初の想定以上の成果が得られている。

4. 今後の研究の推進方策

本研究にて2年間に渡って実施している持続可能性指標の構築については、これまでのパイロットスタディの成果を踏まえ、最重要となるコアの指標群を検討する。さらに、ネパールの地域コミュニティメンバーのための適切なネットワーキングを定義するためのグループディスカッションやワークショップを通じ、ステークホルダー間の協調モデルを構築する。今後もネパール現地における研究活動やフィールド調査を通じ、実態に即した問題の可視化を行い、様々な角度からの研究を並行して進めることで、ネパール型の持続可能な循環型発展社会モデルの構築を目指す。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① Brenda Bushell, Nozomi Imai, Mari Naitoh, Masayuki Goto: “Educating for sustainability: a pilot study in an elementary school in rural Nepal”, *Interdisciplinary Environmental Review*, Vol. 12, No. 1, pp.12-23. 2011, 査読有.
- ② Brenda Bushell, Ryoko Iwamura, Momoko Ozawa, Masayuki Goto: “A pilot study for the construction of sustainable community indicators in rural Nepal”, *Interdisciplinary Environmental Review*, Vol.11, No. 4, pp. 303-321. 2010. 査読有.
- ③ Brenda Bushell: “Grassroots action aimed at building a sustainable community in Nepal”, *Japan Association for Current English Studies*, No. 5, pp. 3-

8. 2009, 査読有.

- ④ Brenda Bushell, 岡田 啓: “サイバー・ネパールプロジェクトによるマルチメディア環境教育コンテンツの開発”. *東京都市大学情報メディアセンタージャーナル*, No.10, pp.84-89, 2009. 査読無.
- ⑤ Brenda Bushell:
- ⑥ “Women Entrepreneurs in Nepal: what prevents them from leading the sector”, *Journal of Gender and Development, Oxfam*, Vol.16, No. 3, pp.549-564, 2008. 査読有.

[学会発表] (計5件)

- ① Nozomi Imai, Mari Naitoh, Brenda Bushell, Masayuki Goto: “Educating for sustainability: A pilot study in an elementary school in rural Nepal”, *International Interdisciplinary Conference on the Environment*, Assumption College, Tucson, Arizona, USA. 2010年9月24日.
- ② Ryoko Iwamura, Momoko Ozawa, Brenda Bushell, Masayuki Goto: “A pilot study for the construction of sustainable indicators for rural Nepal”, *International Interdisciplinary Conference on the Environment*, Assumption College, Tucson, Arizona, USA. 2010年9月23日.
- ③ 瀬戸友貴, 今野夏希, 後藤正幸, 岡田啓, ブレンダ・ブッシュェル: “ネパールを対象としたプロジェクト型環境教育モデルに関する一考察 ～プロジェクトマネジメントの視点に基づく教育モデルの検討～”. 日本経営工学会平成20年度秋季大会, 2008年10月19日.
- ④ 清水恵子, 阿部雄太, 後藤正幸, 岡田啓, ブレンダ・ブッシュェル: “大学生を対象としたネパールにおける環境教育プログラム”, 日本環境教育学会第19回大会, 学習院女子大学, 2008年8月3日.
- ⑤ 今野夏希, 瀬戸友貴, 後藤正幸, 岡田啓, ブレンダ・ブッシュェル: “ネパールを対象としたプロジェクト型環境教育モデルについて”, 日本環境教育学会第19回大会, 学習院女子大学, 2008年8月2日.